

令和3年度



東明小だより

第4号

令和3年6月25日(金)

「ナスの赤ちゃんだよ。」 ～花や野菜を育てる体験を通して～

校長 奥村 哲也

1年生の子どもたちは、朝、登校してカバン片づけをすると、大急ぎで外に出てきます。アサガオに水やりをするためです。そして、毎日のように「こんなに伸びたよ。」「この葉っぱは、私の手より大きいよ。」などと嬉しそうに報告してくれます。6月21日の朝は大騒ぎ。

「咲いてる。アサガオが咲いてるよ。」

2年生も水やりを頑張っています。生活科の学習で、トマト、キュウリ、トウモロコシ等々の野菜を育てています。ある朝、「校長先生、来て。」と呼ばれたのでついて行って子どもが指さす先を見ると、そこには小さなナスの実が。「ナスの赤ちゃんだよ。」と得意げに教えてくれました。



本校では、毎年6月のはじめの週を「命を考える週間」としています。学級活動で「命の桜」について話し合ったり、「安全な暮らし」について考えたり、「命の尊さ」に関わる道徳科の授業を実施したりしました。こうした学習を通して、子どもたちが「命」について考え、「生きているものすべての命を大切にしていこう」とする思いを育てていきたいと考えています。

子どもたちが、花や野菜を育てる活動も、命を考える大切な場です。小さな種から芽が出て、茎が伸び、葉が大きくなり、花が咲いて実ができていく様を目の当たりにする子どもたちは、経験として「命」を感じ取っていることと思います。晴れの日も、風の日も、水やりをし、「大きくなってね。」と声をかける姿から、小さな命を慈しむ心の育ちが伝わってきます。

生き物を飼ったり、花や野菜を育てたりしているご家庭も少なくないと聞いています。ご家庭におかれても、そうした体験等を通して、お子さんと一緒に「命」を感じ、「命の尊さ」について考えていただければ幸いです。